

大原草紙

第 80 号
令和 4 年 7 月
夏季号

私の大原ベストポジション



上野町 東恒男
ありがとう

大原草紙第八十号

いま思う事

文字の書くことは、ほんとうに少なくなってきた。大原草紙のマンガを画かせて頂き、もう七十八回になる。拙い素人のマンガで申し訳ありませんが、読者の皆様には感謝しています。私は八十二歳ですが、小学校一年生から大原小学校ですが、六歳まで父の仕事の関係で京都府の宇治田原に住んでました。戦争中でサイレンがなると慌てて防空壕に身を寄せた事を覚えています。アメリカの B 29 という戦闘機が爆弾を投下しました。今のロシアの侵略戦争を、テレビや新聞で見ていると胸が痛む思いです。人間とは…平和とは…考えさせられます。

私には昭和が一番楽しかったかなア…と思います。人生百年時代といわれますが、高齢者にとって、けっして平穏な毎日ではありません。毎日少し農道を散歩していますが、夕暮れの西の山並みがきれいです。田や畑には有害獣の柵や、温室のビニールハウスなどで景観は悪くなりましたが、時代の変化ですね。

百年後の地球、いや十年後の地球はどうなっているでしょうね。



第21回 京都大原 里づくり協会 通常総会

5月29日
3年ぶりに会議方式で開催

一昨年、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大を避けるため書面審理による総会でした。会議方式の今次総会は、出席者13名、委任状46名で総会は成立しました。会議では、昨年秋季就任された三千院小堀光實門主も出席され、質問、意見を戴き、活発な意見交換が生まれました。

新理事会態勢が決まりました。この日承認された役員は次のとおりです。

顧問	土井 孝雄
顧問	和田野 光彦
顧問	榎並 博一
理事長	西田 誠
副理事長	上田 寿一
常務理事	高倉 哲法
理事	是恒 千鶴子
理事	佐々木 春美
理事	西山 安佳里
理事	渡辺 民
監事	安倍 百合子
監事	山本 克也

総会での主な決定事項

■会の運営について

- ◆ 次の世代につながる出発点として将来に向けた検討と助走期間、過去20年の運営の洗い直し期間とします。
- ◆ 会員の拡大に向けた取り組みを進めます。
- ◆ 関係諸団体との連携を図ります。
- 会の財政確立に向けて

- ◆ 新型コロナウイルスの感染、蔓延防止のため人の集まりは抑制的にせざるを得ないことから今年も会費を集めないこととします。
- ◆ 経費の節減に努めます。
- ◆ NPOの特徴を生かせる自主財源づくりを目指します。

- ◆ 大原草紙に有料広告欄を設け広告収入を導入します。
- ご寄付をお願い致します

総会で財政基盤の弱体化を懸念し、広くご寄付をお願いする特別決議がされました。皆さまのご協力をどうかよろしくお願い致します。

● 京都大原里づくり協会運営の決意 ●

理事長 西田誠

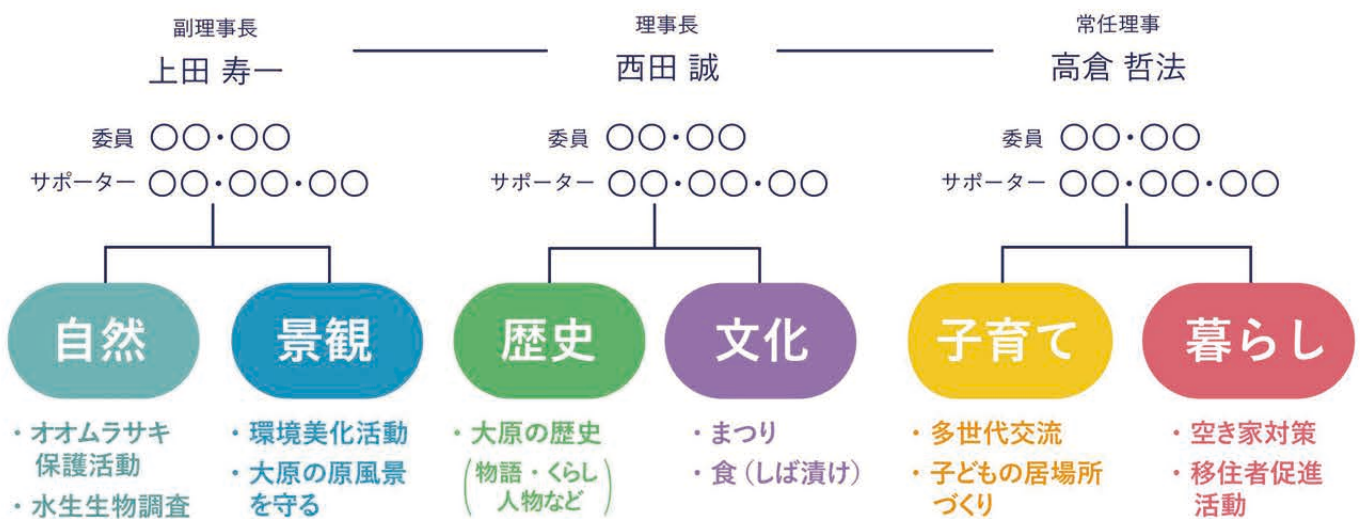
- ガラス張りの透明感ある組織運営に心掛けます
- コロナ禍3年、人と人の絆を強める取組み。多様な考え方や育った環境の違い等を排除しない、させない大原の里づくりに努めます。

- コロナの終息が未だ見えない中、感染拡大にならないよう細心の注意を払いつつ各種の取組みを進めます
- 運転免許証返納者を始め高齢者の居場所づくり。
- 天台声明の聖地大原の地を生かした

「声明を唄う会」立上げ。
皆さまのご賛同をお願いします。

NPO法人 大原里づくり協会

vision : 大原をつなげる -connect-



検討事項

※主な活動の中には各種団体と重複する活動もあるので、役割の棲み分けを考える。

※事業内容の見直し ※里協が目指す将来像、visionの明確化・簡潔化 ※各分野のサポーターが決まったら委員を2人選出してもらう ※サポーター候補 里づくり協会現理事・顧問・幹事・等々

御大典記念大原村誌

御大典記念大原村誌

上田 壽一

「御天皇が即位した記念として全国で御大典記念事業が盛大に実施されました。昭和三年、大原村においても村誌編纂に千円予算が付けられ事業で、その他の予算記録も残されていました。」

大原村

電話架設 一〇〇〇円

村費 特設電話 加入。

役場、学校二架設

村誌編纂 一〇〇〇円

同 歴史、産業、村勢一般、

人情風俗等、五百部印刷

幣帛供進使 三〇〇円

同 制服整備

道路改修 二二〇〇円

村費及府道改修二付受益者

負擔金二代ル寄附金

寄附金 寄附行為、村道改修

大原村農会 三〇円

風致木三百本、

村内会員二配付植栽

記念樹植栽

〔写真後列〕

収入役 西田林蔵

吏員 西川明治郎

〔前列〕

巡査

社長 中辻澤次郎

助役 池田定次郎

吏員 青木米三郎



しかし、製本には到らなかつた様で、その原稿が今も大原学院に大切に保管されています。

では誰によって編集されたのでしょうか。残念ながら分かりませんが、村の事業である以上、役場の人たちも参加している筈です。村誌原稿中に当時の村役人の写真があったので人物紹介を、その子孫の方々にお願ひしました。

澤次郎さんとの思い出

戸寺町 中辻元

この度澤次郎さんが大原の歴史の中に出てきたということ、問い合わせがありました。澤次郎さんは私にとっては曾祖父に当たりませんが、記憶は葬儀の時しかありません。雪が降っておりの庭が雪化粧できれいだったことを覚えています。位牌を見ますと昭和40年2月23日に亡くなっており私の雪の記憶は間違いないと思います。

祖母から、村長をしていた時は離れでよく話し合いをしていたと聞いています。多分曾祖父が村長の時かその前に庭と離れを作り、そこで大原の自治について会議をしていたのだと思います。父からは庭は大原を模して作られていると云われました。祖父や叔父からは厳しい人だったと。大八車で町まで荷物を運ぶ等の仕事の手伝いをしたとのこと。

私にとつては記憶ではなく話を聞いた先祖になります。数年は一緒に生きています。しっかり家系を紡いでいきたいものです。

祖父・池田定次郎の素顔

井出町 池田定男

祖父・定次郎は明治8年に生まれ、昭和40年90歳で没した。大原村村長をいつの時期任命されたのか、わたしは知らない。ただ家には、一枚だけ大原村長・池田定次郎という肩書の名刺が残っている。この名刺を見て、はじめて祖父の表向きの顔というのか、虚像としての池田定次郎が浮かび上がる。

実像の祖父・定次郎は親族の話によると、「無口」「大人しい」「断れない」という、誠に気のいい好爺爺であったように云われている。例えば、村長の任務である仕事をこなそうとするとき、地域住民からの要望、或いは行政からの要請があったとき、村の行政の長として「断れない」ということは、ある意味、致命的なマイナス要因となるのではないか。公務員・会社員といった組織で働く人にとって、「断れない」「断らない」人は、つまり「イエスマン」と看做されないうか。上の者の命令は聞く、しかし反対に下の者に対しての意見・要望は聞く耳を持たない、では長として失格であろう。

(4頁へ続く)

(3頁より続き)

では、うちの祖父の「断れない」性は、家の中ではどのような反応をしていたのか。そのことに聞いているいろいろ逸話がある。周りから「人がいないから」と云って村長への就任依頼があったとき「断らなかつた」そうである。成り手がいないから引き受けたのだ。そして役場に不祥事があつたとき、その後始末を全部償つた。不祥事の責任をとつて長である村長が弁済した、との話を聞いた。やつたというより、やらされたのかも知れない。

「無口」「おとなしい」「断れない」性分の祖父・定次郎は、「損する村長」との渾名も併せ持っていたのである。例えば、旧大原小学校が大長瀬から今の地来迎院に移転し、新しく木造二階建ての校舎が建設されたときは、ヤマハ(山葉)のピアノを寄贈し、調律を繰り返しながらも現在の今に至っている、ということである。或いは、愛宕郡大原村から現在の京都市左京区大原へと行政が変わろうとするとき、尽力したとも聞いた。さらにまた、昭和9年室戸台風による高野川氾濫で井出町の災害は甚大なものであつた。現在の大原記念病院辺りはよくコメの取れる田んぼであつたが、一面、岩・石ころ・流木だらけの荒れた川原になってしまった。このときは、わたしの家の下まで水が来て、庭の石垣があふれた

濁流によって洗われた、と祖母に聞いたことがある。

この災害を機に、高野川と支流宮川の合流地点から河川を付け替える大規模の修復工事を行った。この大工事により、土井橋(花尻橋)まで直線500メートルほどの区間が堤防・道路となり、現在はサクラ・モミジが植樹され、春の新緑、秋の紅葉が道行くひとの目を楽しませている。

結局、祖父は人間として「損する村長」であつたのか。孫として「無口でおとなしい老人」ではあつたが、行政の長として、大原村村長としての心構え、ここに秘める野望と理想があつたのか、は分からない。ただ今になっておもうのは、昭和の孫からみる明治の人間はスケールが大ききということ。明治・大正・昭和の激動の時代を生きてきたのだから、尚更である。こちらが老人の佳境になってきて、あらためてその思いを実感する、今日この頃である。

■災害・日の出新聞

池田定男さんの「祖父・池田定次郎さんの素顔」について少し補記します。

池田定次郎さんはこの写真当時(昭和3年)大原村の助役を務めておられました、後年村長に就任中の昭和9年、史上空前の室戸台風が大原を襲い、学校は大きな被害を受け増改築計画が翌10年2月村議会で可決、京都府に計画書を申請。ところ

が台風シーズン前の6月29日から記録的な集中豪雨による大水害が大原を襲った。このため大原への道路は寸断され大原が孤立、更に小出石町は上下2本の橋が流失して孤立する事態になった。乏しい大原村財政に自然大災害が2年続く中で、小学校の増改築を成し遂げました。

これらのことは大原百年史(昭和50年11月刊、大原小学校創立百周年記念事業委員会発行)「小野霞・第九章風神雷神」で後藤武雄さんが書き残されました。その記録の末尾に次のように記されています。

「その苦勞と功績は、村長と村長を支えた五氏の委員(林郁郎、野崎亀吉、下林留吉、山田甚太郎、松田長蔵)ともども永久に特筆されるべきである。」(編集部 西田誠)



明治の大原小学校



昭和の大原小学校



昭和10年7月1日 日出新聞

内務省官僚矢野兼三さんと 父西田林蔵

草生町 西田 誠

昭和のはじめ、大原村役場の収入役を務めた父の仕事に就いて書くようにと上田壽一さんから求められた。無口の類に入る父が言った「百井峠の頂上と比叡山四明ヶ岳とは履いている下駄の高さだけ百井峠が高い」百井町へ自動車道路をつくるため測量した時の話だ。これだけでは上田壽一さんに許してもええらないだろう。祖父母、父母がよく話題にして、幼い私は陸軍大将より偉い人と思っていた愛宕郡長、矢野兼三さんとの関係を調べた。

矢野さんは1896年大阪市生まれ。難関の高等文官試験に合格し、1921年内務省入省、1923(大正12年)〜1926年京都府愛宕郡郡長を務め、その後本省に戻る際、村役場で働いていた父の弟、利治を見いだし内務省に連れ帰った。

父は1901年(明治34年)生まれで、矢野さんが愛宕郡長だった大正12年は現役で兵役に徴用されていた。関東大震災は大正12年9月1日午前11時58分に発生。父は早い昼食を済ませ、東京赤坂離宮の門衛として交代した直後だった、交代したあの兵は震災の大混乱で昼食をとれて無いはず、また、「朝鮮人が井戸に青酸カリを投げ込んだ」デマが飛び

朝鮮人に対する虐殺や暴行がおき震災後の大混乱は続いた。幾度となく聞いた話。矢野さんとの接点はなかったはずだ。現役の兵役は2年間と知り問題解決。どの時期に役場に勤めていたか解らなかったが、百井への道路が昭和8年に開通している事から、矢野さんとの接点が少なくとも2年ほどあり、八瀬、岩倉、鞍馬、花背、久多等と共に大原は愛宕郡内の一村として郡役所と郡長から指導や監督を受けていたことがうかがえる。

矢野さんは警視庁で二・二六事件の処理を行い、各県への出向、富山県知事等を歴任し、1942年〜1944年(昭和19年)までスマトラ西海岸州司政長官であった。当時、軍政官僚との深刻な対立があったが、内地で強大な権限を持つ内務省、文民官僚は軍部に対抗することが出来た。

1945年8月、長かった戦争は終結。1948年矢野さんはB級戦犯として巣鴨プリズンに収監され、その後スマトラに移送された。同時期の第25軍司令官は戦犯として死刑判決を受け刑死する。矢野さんの刑罰の有無は不明。

矢野さんは俳人高浜虚子の高弟、虚子が草生町に住いたように1960年代半ば大原草生町の古民家を終の棲家として移住。俳誌「志賀」を主宰、俳号は蓬矢。風流と風雅を友としつつ私の父、叔父の利治との

交流が復活。同人誌で矢野さんのエッセイに律義者の父や私も「里人」として登場。1年に何度かの句会には京都駅の脇に職場がある私は行き帰りの手荷物運搬係。おそろしく古風な高級本革製カバンを職場に持ち込むと先輩に「おお里人、精が出るね」と冷やかされた。

1981年2月20日矢野さんの葬式は吹雪が舞う日、受付係の私の机には雪が見る間に積もった。父の没後ちょうど1年後。そうだ高浜虚子の草生町での住い跡を探さなければ。

〔参考資料〕林英一著「南方の志士」

懐かしい祖父の写真を見て 想ったこと

来迎院町 青木 弘好

昨年、手元に一枚の写真のコピーが届けられた、かなり古い写真だ。持ってこられた大原工房の上田さんによると学校にあった資料のコピーとのこと。写っている人物に心当たりがないかとのことであったが、よほど年配の方でないかと誰とは特定出来ないくらい古い集合写真。かなりお洒落な人達が写っており、おそらく昭和初期に撮影されたもので、写真で分かる様に、社会風俗的には、まだ着物が主流で、西欧からモダニズムが輸入されていた混沌とした時

代のもので推測できる。いわゆるモダンボーイ、モダンガールと呼ばれた流行の最先端を取り入れたお洒落な人々が現れた頃である。

で、何故この一枚の写真が私の元に来たのか？写真の6名のうち1人が私の祖父だと言うことで……らしい。私の記憶の中のイメージとは違うが前例向かって左側の人物が祖父「青木米三郎」(1894年12月3日生〜1979年8月4日没)で撮影当時は大原村役場に勤めていて、その時の写真らしい。

臆げに、そのような事を聞いたような記憶はあったが、この写真を見て初めてそのことが事実であったと知った。その後、逋信省(後の郵政省)に入り山城大原郵便局長として、その後の人生を郵政事業に捧げた。

さて、写真の祖父の蝶ネクタイのファッションを見ても分かるように、当時田舎であった大原に住んでいてもかなりの洒落者で、仕事以外の趣味は、当時まだ珍しかったスキーや釣り、カメラ撮影だった。当時の最先端を走っていたようである。特に愛用のMamiyaとKodakのカメラで撮った膨大な数の写真は、2003年から2004年頃にかけて前述の上田さんが編集されていた大原観光保勝会ニュースの「大原懐かし写真館・郵便局長のおじいさんの写真集」と言うミニコミ誌への掲載(6頁へ続く)

(5頁より続き) 同じ頃に開催された大原小学校の創立記念イベントの際に貸出して会場に展示された記憶がある。その写真には明治から大正の頃の大原の様子が克明に残されていたので、ご覧になったご高齢の方からは懐かしかったと言うお声を数多くお聞きした。

多彩な趣味以外にももうひとつ、お洒落でハンサムだったので、モテモテでもあったらしい。この手のお話は詳しくは聞いたことはないが、何気なくおじいさんはモテ男やっただと教えてくださった方もおられたので、おそらくそうだったんでしよう：

また本業である仕事では、郵政事業に貢献したと言うことで誠に光栄なことに退職後の昭和44年に叙勲の栄を受けている。本来なら、皇居で頂けるところを身体が不自由であったので、残念ながら東京へ行けず自宅で受章したことは何となく記憶の中に残っている。

身体的なことを思い出すと現役バリバリの頃、私が小学校4〜5年の頃であるが、青森での会議に出張中、胃潰瘍で血を吐いて倒れ、現地で入院、手術し連れて帰るのに両親が迎えに行った記憶がある。その胃潰瘍と晩年患ったリュウマチの治療で、岡崎から新町蛸薬師へ移転する際に祖父が尽力した京都通信病院で入院を繰り返していた。祖母が付き添いでいつも一緒に病院に行っていた。

た。また、観光ブームを見越して、大原にいち早く観光バスの駐車場を開設したのも、常に流行の最先端を走っていた経験からかも知れない。

そんな祖父の思い出をこの写真は思い出させてくれた。私は、初孫で長男と言うこともあって、弟よりは可愛がってもらい甘やかされ、子供の頃は色んなところに連れて行って貰った記憶がある。高校生の時から音楽活動にハマった時も両親より理解してくれていたのが、今は嬉しい思い出。

しかし、甘さの中に、挨拶や食事作法のこと等々、時にはうるさいくらいに私に説いていたのは総じて「他人へのおもいやりや感謝の気持ちを忘れないこと」を自然に教えてくれていたということ。今回の写真を見て気づいた。

祖父の優しいながらも厳しい教えがあったからこそ、私があるのだと思う。年齢が近づいて来てようやくその教えが身にしみてわかったように思う。

ありがとう、お洒落でモテモテでやり手の米三郎さん！

祖父西川明治郎について

上野町 永田 護

西川明治郎は母方の祖父にあたります。私の両親は共に勤めに出ているため、幼いころの私は祖父母宅で短くない時間を過ごしました。夕飯前に帰宅するなり脳卒中で倒れ、意識が戻らぬままこの世を去った祖父の最後に発した言葉を、祖母と一緒に聞いたのはまだ5歳だった私です。しかしながら、それを除けば祖父との思い出はほとんどありません。一旦職を退いた後も囑託のような形で仕事を続けたりしく、祖父の家においても祖父自身の姿を目にすることは多くなかったことを記憶しています。

先日、今は誰も住む者のいないその家を片付けていると、祖父の履歴書が見つかりました。若いころ大原村役場に職を得て、途中1年半ほど離職した期間があったものの、定年と思いき年齢まで勤めたことと記されています。また、昭和24年の大原村の京都市編入にあたっては、左京区役所大原出張所長を拝命したことも記載されていました。そんな経歴が手伝ってか、大原に貢献したいという思い少なからずあったのかもしれない。

これは、草生町にお住まいの松田さんからつい最近教えていただいた話なのですが、昭和初期、「大原農美生産組合」という組織があったそうです。農業や林業に携わる人が多かった大原で、現金収入を得るために独自の産品を作り出そうと結成されたのでしよう。当時の村民有志が講習会に参加するなどして習得し磨いた技術は、「大原女盆」(大原女の姿が彫られている、食事の配膳などに使用する木製のお盆で)となって結実し、昭和天皇の即位御大典の際にお買い上げいただくほどになりました。そして、その活動に祖父の加わっていた記録があるようです。自宅の改築を自分でするほど器用な人でしたから、自ら製作に携わったのか、あるいは、役場の人間として事務的に関わっただけなのか。残念ながら、周囲にそのことについて知る者は一人もありませんでした。

締めくくり、ごくごく私的な思い出の一つ。10年ほど前のことでしょうか。自宅の倉庫や押入れを整理していると、古めかしい洋服箱が出てきました。開けてみると、新聞紙に包まれたコートが入っていて、その裏地に「西川」と刺繍がしてあります。どうしてこんなものがあるのだろうかと思いつつ、外した新聞紙へ何気なく目を移すと、日付が40年以上前の私の生年月日と一致するのに気が付きました。私の誕生を祝って、祖父がプレゼントしてくれた物であることが推し量れます。正直なところ、重くて分厚いそのコートに袖を通したことはほとんどないのですが、少しは気にかけてくれたのだな、と洋服ダンスを開けるたびに少し嬉しくなります。

大原大掃除



いま
京都大原学院で

新型コロナウイルスの影響から学校の各種行事は慎重にならざるを得ませんが、それでも少しずつ本来の姿に戻しつつあります。

5月31日午後は伝統の「大原大掃除」1年生から9年生まで、大原の清掃活動で校外で頑張りました。

6月4日は大運動会、残念ながら応援は生徒の保護者、家族まで。好天のもとで熱中症にも注意しつつの1日でした。写真は学校から戴きました。

大運動会



大人の 大原提言

「JA 跡地利用」編

JA 京都中央農協では大原支店を来春閉店すると言われています。今、関係者間で跡地利用についてどのようにするか協議されているようです。貴重なこの施設をどう活用することが、大原と住民にとって良いものになるのか、あらかじめ4名の方にお話ししました。提案をご紹介します。

「図書館カフェ」で ゆったり過ごせる交流の場に



草生町 山本夢

JA 大原の建物を貸与くださると聞いて、「図書館カフェ」が思い浮かびました。

1階で本を選んだり閲覧したり。2階はゆったり過ごせるカフェスペースとして、自販機（飲み物とお菓子）とテーブル・イスを置いて、本を読んだり談笑したり、和室を乳幼児用にするなどしても。壁や本棚に大原学院の子供たちの絵や作品を展示すると、子供たちと普段学校には出向かれない住民の方々との、間接的な交流にもなります。



2階のカフェスペースはイベントにも使用して、例えば、お祭りの前に八朔踊りの講習会を開いたり、大原女衣装の着付けを教わるのもいいと思います。私自身も含め移住者世帯が少しずつ増え、子供が多くなると喜んでいただけでありがたいのですが、大原の風習や伝統が家族間で自然と伝わることなく、加えてこのコロナ禍で行事の中止も続き、ふれる機会をますます持てなくなっています。

図書館カフェを常設し、誰もがゆったり落ち着ける場に、そして、時折イベントを開催して、地域の様々な世代が交流し、伝統を知ってつないでいく場としても活用できれば良いと思います。

大原の内と外がつながる、「文化拠点」へ

山本（西山）安佳里



JA 大原の建物が活用できると聞いて、純粋にとっても良い立地！と感じています。まさに大原の中心地。里の駅の向かい、バス停も近く、しかも駐車場も広い。大原内外の人が交わる『地域の文化拠点』として生まれ変わって欲しいと願います。

大原の外の人にとっては、大原へやって来る目的が観光名所や野菜の購入だけにとどまらず、「通える里山」にフラッと訪れ、リモートワークをしたり、ゆったりと本を読んだり、個展をひらいたり、ポップアップショップを楽しんだり……束の間の大原タイムを自由に楽しめる場所に。大原の内の人たちにとっては、自分達の自治の拠点として、大いに里山の未来のために語り合える場、多世代が集えるオープンなスペースとして。大原内外の人たちが、お互いに快適に利用しやすくなるよう、ルールづくりも必要です。また、「通える里山」を守り未来へ繋ぐためにも、この場所のコンセプトや目的を明確に示し、周知しておかなければならないと感じています。

みんなの小さな挑戦を歓迎し、お互いがサポートし合える実験的な場所として、大原で新たな文化が生ま

れ続ける景色を、わたしは妄想しています。

今までは点と点だった、空き家情報や、日々の暮らしの情報、昔から住んでる人も、新しく住みはじめた人も、これから住みたい人も……ここに来れば情報が集まり人の交流が生まれ、混ざり合っていく。点が線になり、面になるための基盤となり、長く活用される場所となるよう、みんな協力していきましょう！

ただ、建物が古い。これから大原の重要な拠点にするには、ハード面の安心・安全性は相当不安です。クラウドファンディングか、マネタイズできるプロジェクトを生み出し、大規模な改修工事も視野に入れ、場の活用方法に加え、建物自体のアップデートも検討すべきだと感じます。

JA 大原の 建物利用について

小出石町 渡辺民



JA 京都中央大原支店がなくなると思っていた時は驚きました。自分達のメインバンクであるだけでなく、普段から2階会議室などを利用していただけです。建物を利用する際にはいつも老朽化を感じていたので致し方ないという気も少ししました。更地にもどって、さて一体何ができるのだろうと思っていました。

壊すと思った建物の利用について、提案するように依頼を受けた時、まず最初に思ったのは、このままの状態では使い続けるのは危険ではないかという疑問でした。2階の会議室には網戸がなく、また、一旦開けると風が通り抜けすぎて他の部屋の扉がバタンと閉まります。トイレや給湯室も老朽化が進み、多くの人が使うのに適しているとは考えづらい設備です。空調は機能していませんが、設備が古いのでランニングコストが気になります。また、施設の外構、特に裏側には段差やごみが散乱していて危険な箇所も多いです。JA大原がなくならないと聞いたとき、てっきり建物も取り壊すものだと思ったのはこのような理由からでした。そして、取り壊さずにこのまま使い続けると聞いてさらに驚きました。

一方で大原の中心部とも言える立地は素晴らしい、里の駅や学校、バス停ともほど近いこの場所は大切にしたいと思います。大原に住む人や、大原に関心を持つ人が気軽に立ち寄れる時間を過ごすことのできる場所があるように今、私は、JA大原跡地がそのような場所になればいいなと思います。具体的には、

① 1階の利用…カウンターがあることで、それを活用してごく普通に美味しい、それでいて少し技術のいるパスタカフェメニューを提供する喫茶店をひらく。展示室が喫茶エリア。

店員には、地元の高校生、大学生などを積極的に雇用し、調理や接客の職業訓練の場にする。運営者は公募してもいいと思います。

② 2階の利用…会議室、和室ともにWifiを完備し、共用のプリンター、応接できる場所も設置し、会員のオフィス（コワーキングスペース）にする。里づくり協会が運営してはどうでしょうか。

③ 倉庫…買い物代行サービスの事務所にする。これは、以前よりあったらいいなと思っているサービスです。どなたか運営者を募集して事業化できればニーズがあるのでと考えています。

④ 外構…現在コンビニで行っている生ごみ堆肥事業をこちらで行ってはどうでしょうか。運営は里づくり協会が行い、大原やさい研究会などと協働してもいいかもしれません。

以上、簡単ですがアイデアを考えてみました。建物の老朽化という負の側面がありますが、大原の中心と言える大切な場所が、色々な人が集うことのできる広場のようになれた場所になればいいなと思います。



カルチャー・センター構想

上野町 土野かおる

JA大原の広い空間を生かしてダンス・音楽スタジオを作るのはどうでしょう。大会議室の壁を一面鏡にしてダンス・スタジオに、また、倉庫を防音にして音楽スタジオに。先生を呼んでレッスンも可、サークルへの貸し出しも可。学生時代にダンスや演劇や吹奏楽やバンドに打ち込んだ方、大原にも子供達が舞台芸術に親しめる場所があるといいなと思います。か。「そう思う！」と答えたい方、改修費用のカンパと備品の寄付にぜひご協力を!!

あるいは、調理室を作って料理教

室やレンタル・キッチンもいいですね。器具メーカー、リフォーム会社などにスポンサーになっていただき水回り工事を協賛してもらえないかなあ…あるいはJAグループに「JAキッチン大原」、ご相談してみますか？今後増えるであろうベジタリアン、ビーガン（菜食主義）の旅行者向けに、採れたて野菜を調理して食べられる施設は新人気スポットになるかもしれません。

■地域エネルギー・センター
兼エコ・タクシー発着所

JA大原の屋根を使って太陽光発電。電気自動車（EV）の充電ステーションを設置。今後増えるであろうEV車の需要に応える。

① EV車を購入し、大原内限定のエコ・タクシーとして運行。地域のニーズに応じて割引パスを提供。

② 事務所ではエコ・タクシーの运营管理を行うほか、地域資源のエネルギー利用に関する調査研究を行う。小規模・地域分散型エネルギーの導入例、バイオマス（山林の間伐材、農作物残渣、刈り草、剪定枝等々）の活用事例等を調査し、大原に適した計画を策定、事業化を目指す。

③ 建物の冷暖房にもカーボン・ニュートラルな燃料を選択。ゼロ・エミッションを目標に掲げながら夏・冬も快適に過ごせるくつろぎ空間として、地域住民や訪問客に開放する。

夏・災害多発シーズン

大原消防分団の 訓練から



左京消防団大原消防分団は総勢46名。職業は自営業からサラリーマン、年金生活者とまちまちなボランティア。消防署員を支えて、緊急時に土地勘を生かしてすぐ駆けつけられる有利さと、災害に備えて冷静で強い対応力。訓練を重ねて突然の予期せぬ災害に備えます。

●三年ぶりに左京消防団総合査閲が開かれました。

5月22日、久しぶりに左京消防団が集り、大声のキリットした号令と団員の姿勢。消火活動の基本動作を確かめ合う行動が精華大学グラウンドで行われ、大原分団も前川長生分団長以下分団員が災害にむかう姿勢を示しました。

●左京消防団山林火災消火訓練

この訓練も三年ぶり、6月9日、場所はお隣さんの「静原キャンプ場」左京消防団、山林に遠い市中的分団も参加して山林における消火活動の基本動作を学び直しました。

●大原分団放水訓練

6月19日は新入消防団員を中心に小型動力ポンプの操作と、火災に際し消火のための放水訓練。危険が伴う災害現場、消防ポンプからの放水が的確に火点に放水するには訓練が欠かせません。



広告を 募集します

大原草紙は次号(第81号)から
有料広告の掲載を開始します

コロナ禍の中、里づくり協会の会計も逼迫してきました。紙上に広告面を有料で掲載し、大原草紙の発行費用をねん出したいと思えます。ご商売の宣伝に御利用下さい。私はこう思う…といった意見広告にもご利用ください。(少し制限があります。)

詳しくは編集部西田までお尋ねください

090・4649・0633

転倒防止体操体験記

編集部 西田誠



運転免許返納世代の準備

ご近所の2学年下のH氏が運転免許証を返納した。家族からの進言で新車同様のマイカーと共にスパット手放された。「歩くのが辛いのもつばらテレビを相手にしている」スッカリ片付きガランとした元仕事場で一日を過ごしている。

遙か昔、就職に有利と運転免許を競って取りに行っていた同級生を見ながら安月給で一生自動車など無縁と思っていた自分も「10000ドルカー、マツダ・クーペー」が登場。

免許をとってもう半世紀以上経過しました。大原に住み自動車の無い生活は辛いものがある、しかしかかり付け医の待合室にこんなのがありました。

18歳は高速道路を暴走する。

81歳は高速道路を逆走する。

こうなっているといけない。私なりの免許返納プログラム作っている。

第1段階は今、実行中。遠くへは行かない。府庁前の病院は例外であるとは高野まで。琵琶湖畔の堅田のホームセンター付近。夕方以降は運転しない。

第二段階は大原内のウロウロと最寄りのバス停まで、市中には京都バスにお世話になる。

第3段階は運転免許証の返納。この覚悟は大変だ。

冒頭の、H氏の話聞き自分自身の返納後の過ごし方が出来ていないことに気付いた。人との交流を断つことはできない。私の第4コーナを整備せねばと考え高齢者の「居場所づくり」を「高齢サポート・大原」の担当者の方「大原地域社会福祉協議会」の坂本会長さんに相談に乗って頂いています。

英国では「男の山小屋」という高齢者が集まる場所があるそうです。それにならない今から準備をしても決して遅くはない、私81歳。



転倒防止体操体験記

どこかで「高齢者の転倒事故」の60%以上は自宅などの室内で発生していると聞きました。大原社会福祉協議会が毎月回覧板で知らせてくれる取組みを午後1時半から体験しました。

5月26日は欠席者が多く、古知平町の久保さんをリーダーに井出町の山崎さん、前田さんが参加。お二人は久保さんより長く体操に通っておられるそう。6月2日は早川、坂本、大林さんが来ら

れて賑やかなもの。最初の準備体操は



椅子に座っての簡単な準備から、それは始めの方だけ、徐々に体の動きが複雑になってくる、左右の手や足を別々に動かすよう言われるが、皆さん馴れたものだが、ウーン、若手高齢者ご参加ください。左、右の手でジャンケンして右手が勝つよう。次は左手が勝つという。ウーン。手足を上下左右に別々に動かせと言

う、これはかなりむずかしい。毎週木曜日13時30分から2時間ほどの体操、現在は野村町の「健幸の郷」で行われています。10年以上の歴史を持ちます。いきなり出来るほどたやすくはないのがミソです。そのうち、いずれ必ず高齢者になります。「高齢者青年部」頃から始

京都大原里づくり協会から 募金のお願い



コロナ禍の中、諸物価の値上がりの中大変です。当協会も設立20年。次のステップに向けて皆さまに活動基金をお願い致します。募金は当協会の役員へご連絡下さい。

めることがおすすめで初体験の感想。若手高齢者のみなさんチャレンジです、ご参加ください。和気あいあいやる転倒防止体操です。参加費無料。汗拭き用タオル、水分補給の水、上履き用マイ・シューズがあればなおよいです。次はグランドゴルフに挑戦しよう。そうしてみんなで楽しく。集まりましょう。1週間に1回程度は集まりましょう。「1週間に10日来い」という歌がありました。





れんさいマンガ
* 79 *
アズマツネオ



共働きや移住者家族が増加してきた大原の子育て世帯。近くに頼れる家族や知人がいなくて困っている方がいるのでは？ 体調が悪くても病院に行けない、下の子がいるので上の子の習事の送迎が大変、仕事場が遠くてお迎えの時間に合わないなど。子育てがひと段落した今、何か自分がお手伝いできる事がないかと考え、ファミリーサポート事業のおまかせさんに登録しました。京都府の委託事業なので、おねがいする側もおまかせされる側も安心して利用できる制度かなと思います。登録者が増えて、大原での子育てを地域で支えている歩につながればいいなと思っています。

こんにちは。私達は4人家族で現在上野町に住んでいます。美しい自然に囲まれた大原が大好きで3年前から住んでいます。私は京都で畳屋をしており、妻は京都で毎年行われている京都国際写真展 KYOTOGRAPHIE をしながら大原インターナショナルクラブハウスのボランティアスタッフ

■投稿者…横山充

家を探しています



掲示板を御利用下さい

掲載無料

最終ページは情報交換の場です。困りごと、探し物、不用品交換その他お知らせに御利用下さい。掲載料は無料です。(掲載枠は最終ページのみ)

問合：編集部 西田

☎090-4649-0633

をしています。上の娘は大原小学校の2年生で下の息子は再来年入学予定です。オーナー様の諸事情により7月中に引っ越しをしなければならなくなりました。4人家族で住めるお家を探しています。大切に住まわせていただきますので情報をいただけましたら幸いです。よろしくお願いいたします。

☎090・9285・5057

ファミリーサポート事業

令和4年6月『市民しんぶん』より引用

子育ての援助を受けたい人（おねがいさん）と子育てを手伝いたい人（おまかせさん）が会員となり、育児を助け合う制度。

会員の資格

- おねがいさん…市内に在住か通勤の12歳以下の子どもの保護者、妊婦
- おまかせさん…市内在住の18歳以上（その他要件有）

報酬額

- 平日7～19時は1時間700円、それ以外の時間は1時間900円



空いた時間に、自分のできる範囲で支援可能！

「おまかせさん」の仕事

- 保育園や幼稚園などの送り迎え
- 放課後や学童クラブ終了後の預かり など



京都市のファミリーサポート事業

おまかせさんに登録しました！

■投稿者…井出町

前田明美